令和２年度 斜里福祉会事業報告

１．運 営 概 要

○　昨年当初に中国武漢市において確認された新型コロナウイルスによって、私たちの生活は一変しましたが、このことで庶民の生活状況も職を失い貧困に陥る方、その一方で富が偏在するなど、経済格差が顕著となったとも言われています。

克服が困難と思われているこの感染症も、やがては人類の叡智や科学の進歩によって乗り越えられるものと確信するところです。

○　さて、昨年は当法人にとって試練の年となりました。慢性的な介護士や支援員の不足が継続していましたが、この現象に加えて経営陣の独善的な経営方針が影響し、さらに多くの職員が退職あるいは今後退職意向という状況が発生したところです。

このことは、法人の存亡にかかわる事態となり評議員、役職員及び関係機関等に危機感をもたらし、人心の一新を図る結果となりました。

○　経営の立て直しにあたり、理事会等内部での検討を経て行政への協力要請等も行いましたが、人材派遣等の直接支援は困難との結果を受け経営改善は困難を極めました。

その後も対応に苦慮する中、株式会社慈光の代表者林川氏より支援の申し出を頂き、理事会等で議論の結果、支援要請を受け入れ再建に努めることになりました。

ようやく再建への一歩を踏み出すことができた訳ですが、崩壊した企業風土を復活・再生するにはとてつもなく多くの労力と時間を要することになりました。

○　このように、実に厳しい環境下に於ける法人運営となり、利用者や家族の皆様、そして職員の皆様にも不安やご心配をお掛けする結果となった一年でありました。

○　経営に大きな影を落としたのは、人材確保が困難であった点に尽きると思います。

ここ数年は人材紹介事業者に頼ることが多く、一定の成果があったものの定着という面からは短期間での離職が多く財政面でも負担が大きいものでした。

また、外国人労働者を頼りとして特定技能１号外国人の確保にも努めましたが、折からの新型コロナウイルスの蔓延等により、入国の予定がたたない状況となりました。

加えて経営陣の独善的な対応が多くの退職者の発生を招くなど経営を圧迫する結果となりました。

○　以上を背景として法人全体の財務諸表からは次のような状況となりました。

損益の指標となる事業活動計算書によると、介護報酬等の収益が前年度比で△１１９，２３６千円と多額な減収となり、経常増減差額も△２３，５１８千円の減となりました。その結果、純資産に影響を与える次期繰越活動増減差額についても減額となったところです。

支払資金の指標となる資金収支については、当期資金収支差額において△４８，５７３千円の減となり、当期末支払資金残高が１５６，２７０千円に減少となりました。

支払資金の減少は、令和３年度の運営にも大きく影響する点であり、既に行政に対して運営資金の支援要請等を行うなどの対策を行っていますが、安定的な運営が確立されるまでは当分の間は運転資金の確保に留意する必要があります。

○　困難を極めた一年でしたが、役職員の努力や関係機関のご理解とご支援を受けながら、令和２年度の事業運営を終えることができました。

本格的な安定運営には多くの曲折があるものと思われますが、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げ事業報告といたします。